

胃がん検診（胃部エックス線検査）について

胃部エックス線検査はバリウムを使用し、エックス線撮影にて検査を行います。持病のある方は事前にかかりつけ医とご相談の上、検査を受けてください。また、当日の問診によっては検査を受診できない場合があります。

以下の注意事項をよく読んでいただき、検査を受けてください。

1. 食事・嗜好品について

検査前日は暴飲暴食を避け、夜9時以降は検査終了まで食事（朝食を含む）や飲酒はしないでください。

- ・夜間、水は飲んでも差支えありません。また、起床後から検査2時間前までは200ml以内の水は摂取可能です。夏季に検診を受けられる方は熱中症に十分ご注意ください。
- ・水以外（お茶・スポーツドリンクなど）は避けてください。
- ・検査終了後まではガムやたばこも控えてください。

2. 検査当日の内服について

糖尿病の方

検査受診前は薬の内服やインスリン注射はしないでください。低血糖の恐れがあります。

心臓病・高血圧の方

朝食は摂りませんが、薬は検査開始3時間前までに、200ml以内の水で必ず内服してください。内服をしていない方は受診できない場合があります。

※その他の薬の服用等については、かかりつけ医にご相談ください。

3. 副作用について

- ・発泡剤内服後、胃が膨張することによる血管迷走神経反射でめまいが起こることがあります。
- ・バリウム検査後、まれにアレルギー症状（発疹、蕁麻疹、顔面の腫れ、喉のつまり、ショック症状）を起こすことがあります。
- ・バリウムの飲み込み（嚥下）が悪いと、バリウムが誤って気管支に入り、呼吸困難や肺炎を起こすおそれがあります。
- ・バリウムが便として排泄されずに放置すると、消化管が詰まったり（腸閉塞）、消化管に穴が開いたり（消化管穿孔）するおそれがあります。
- ・胃のエックス線検査は胃がんが早期に見つかる可能性（利益）とともに、医療被曝という不利益もあります。

検査の注意点

- ・バリウムの排泄を促すために、指示された下剤の内服をしてください。当日は水分を多くとるようにしてください。
- ・検査後、下剤を内服することで2～6時間で効果が出現することが多いですが、次の日も排便がない時は医療機関にご相談ください。
- ・下剤を服用した後に授乳すると、乳児に下痢症状が出る場合があります。
- ・大腸憩室や憩室炎の既往がある方で検査後に腹痛が出現した場合、必ず医療機関を受診してください。
- ・胃・十二指腸・大腸・頭部・心臓の手術歴のある方、また治療中の方、その他持病のある方はかかりつけ医にご相談ください。

《お問い合わせ先》

恵那市役所 健康推進課 健康増進係 ☎0573-26-6822